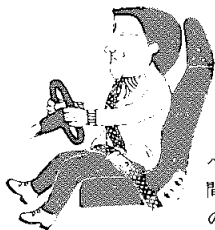


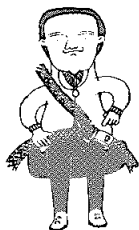
安全運転のために

★正しいドライビング・ポジションは急カーブや振動に対して身体がふらつかず、両手両足を敏速かつ、正確に動かせる姿勢です。
また前後の視界が十分確保でき、長距離運転にも疲れにくい姿勢であることも大切です。(シートの調整の項目参照)



ヘッド・レストの間はにぎりこぶしの幅以上あげないようにしましょう。

★シート・ベルトは必ず装着して運転しましょう。腰ベルトは腰骨の位置にぴったりと装着しましょう。(シート・ベルトを忘れずにの項目参照)



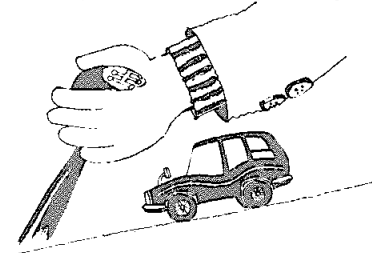
腹の位置にかけると万一のとき体にくい込み危険です。

★ヘッド・レストの位置はヘッド・レストの間はにぎりこぶしの幅以上あげないようにしましょう。



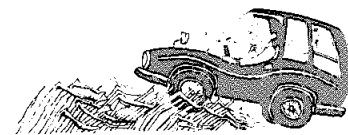
正しい位置にしないと危険防止に役立ちません。

★長い坂道を下る場合はエンジンブレーキを活用しましょう。(ブレーキ、クラッチの使い方の項目参照)



フット・ブレーキを踏み続けるとブレーキの効が悪くなる恐れがあります。

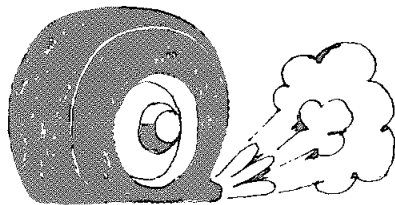
★駐停車するときは
1. 枯草など燃えやすいものの付近や、上に車を乗り入れたり、駐停車しないでください。



排気管付近はかなり高い温度になるので、万一の場合枯草などに着火する危険があります。

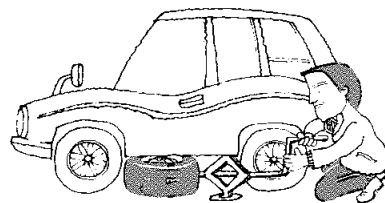
これだけはぜひ！ 守りましょう！

★タイヤは
1. 走行前に必ず空気圧を点検しましょう。(タイヤの空気圧の項目参照)
2. 摩耗して溝が浅くなったら取り替えます。(タイヤの溝の深さの項目参照)



走行中、パンクやバーストを起こしやすくなり危険です。

★ジャッキを使用するときは所定の位置に確実にセットしましょう。輪止め、パーキング・ブレーキを忘れずに。(バンクの処置の項目参照)



ジャッキがはずれると車が急に傾き大変危険です。

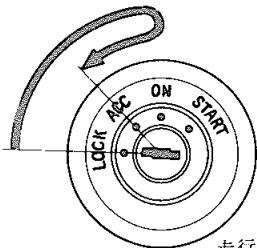
★注意
やむを得ず枯草などの中に入り込んで、駐停車する場合は
(1)エンジンを必ず止めてください。
(2)走行する前に、枯草などの可燃物が排気管に巻きついたりしていないか点検してください。
2. 密閉した車庫内などで、エンジンをかけたままにしないでください。

★走行中エンジン・スイッチを切らないでください。
ブレーキ・ブースタが作用しないので、ブレーキの効が悪くなります。

★エンジンを停止して車を移動する場合は

(けん引される場合など)

1. エンジン・スイッチを一度ONにしてからACCの位置にしましょう。
(エンジン・スイッチの項目参照)



走行中はキーを絶対にロックの位置に回さないでください。
危険です。

2. ブレーキ・プースターは作動しませんので通常より大きな踏力が必要です。

★適切な暖機運転をしましょう。

エンジンが冷えているときは出力の低下、走行性能の悪化など車本来の性能が十分に発揮できません。

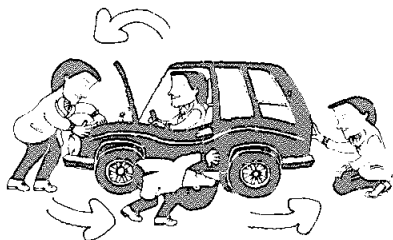
暖機の方法は必ず“エンジンを始動するには”の項を参照してください。

★注意

暖機運転のときエンジンを高回転のまま10分以上放置しないでください。

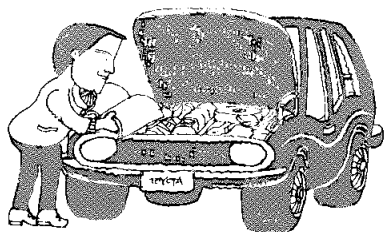
★作業点検は

故障を未然に防ぐために必ず行ないましょう。
(作業点検の項目参照)



★定期点検は

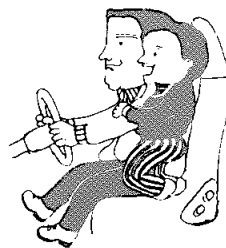
法令でも定められていますので整備手帳に基づいて必ず行ないましょう。



車の性能を維持するために大切なことです。

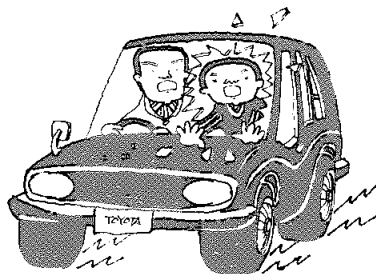
お子様を乗せるときは

★なるべくおとなと一緒にリヤ・シートにすわらせましょう。

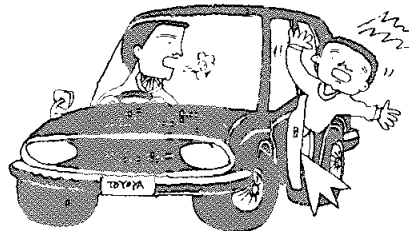


助手席ではドライバーのじゃまになります。

万一のとき放り出される心配があります。



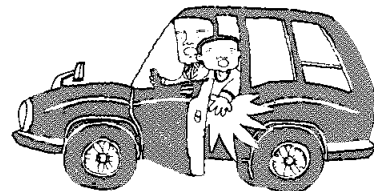
★ドアのロックを確実にしましょう。



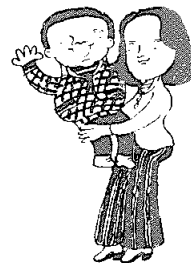
ロックをすれば、ドア・インサイド・ハンドルをいじっても、ドアは開きません。

★必ずおとながドアの開閉をしましょう。

お子様が手をはさむ場合があります。
あり危険です。



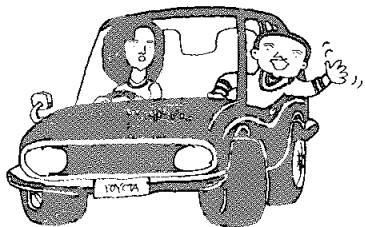
★車から離れるときは、お子様と一緒に連れて行きましょう。



室内にお子様を残しておくと思いがけない事故が起きる場合があります。

★窓から顔や手などを出させないように
しましょう。

思いがけないケガをすることがあります。



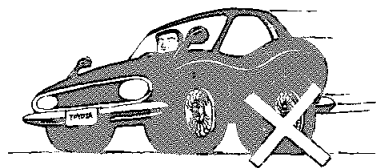
対向車や後続車に迷惑をかけ
またマナー違反です。

故障を防ぐために

★車に装着する部品は

車の構造に適した純正部品を使用しまし
よう。

特に車の走行に関連するところにはメー
カーが運輸省に届出をした指定の部品以
外は使用しないでください。

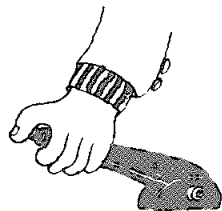


車の性能や機能に適さない部品を
装着すると、思いがけない事故が
発生する場合があります。

★パーキング・ブレーキ・レバーは

走行する前に必ず確実にもとの位置まで
もどし、ブレーキ・ウォーニング・ランプ
が消灯するのを確かめてください。

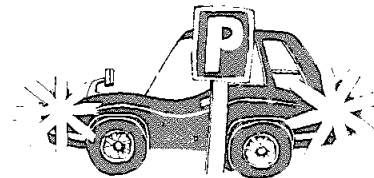
(パーキング・ブレーキ・レバーの項目参照)



ひいたまま走行するとひきずりを起こし
ブレーキの効きが悪くなる恐れがあります。

★バッテリーは

完全充電でもエンジンを停止してランプ
類を使用すると消耗がはげしいものです。

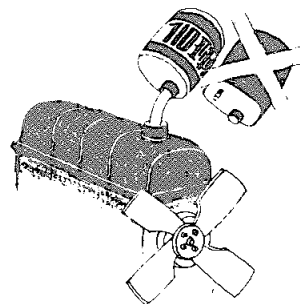


バッテリーが上がリエン
ジン始動ができなくなる
ことがあります。

★エンジン・オイルの補給は

同品質か、それ以上のオイルを使用しま
しょう。

(トヨタ純正キャッスル製品の項目参照)



質の異なったオイルを補給すると性能が
低下する恐れがあります。

★ブレーキ、クラッチ・フルードを補給 するときは

同品質、同銘柄のフルードを必ず使いま
しょう。なおタンク内にゴミがはいらな
いように十分注意しましょう。

(トヨタ純正キャッスル製品の項目参照)

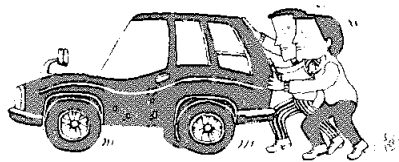


ゴミがはいると、
ブレーキが効か
なくなり、クラ
ッチは切れなく
なることがあり
ます。

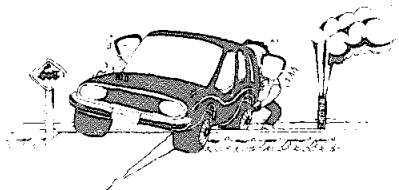
万一のときは——

★エンストして始動ができなくなったときは

1. 付近に人がいる場合は安全な場所まで押してもらってください。



2. 踏み切りなどで、急を要するときは、スターターで抜け出してください。ギヤをセカンドまたはサードに入れ、スターターを回します。このときクラッチから足を離しておきます。また平坦路の場合は、トップにすると早く抜け出せます。
3. 踏み切りなどで抜け出せない時、列車が来そうになったら保安炎筒で合図してください。



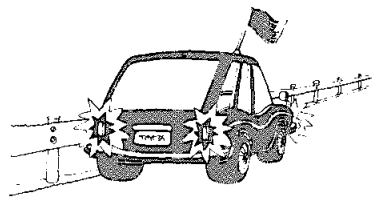
★高速走行中、パンクやバースト(タイヤの空気が急に抜ける)したとき

ハンドルをしっかりとって急ブレーキは踏まないようにしましょう。

急ブレーキを踏むとハンドルを強くとられ、車が横転することがあります。

★故障したら

車を路肩に寄せハザード・ウォーニング・ランプを点滅させるか、または、故障車とわかるように赤旗などを目につくように表示します。



★遠出して故障し、なおせないときは整備手帳のサービス網をご覧になって、最寄りの取り扱い販売店へ連絡しましょう。